

加賀市の地域医療の充実に関する答申書  
(案)

令和2年2月 日

加賀市地域医療審議会

# 答申内容

現在、地域医療体制については、効率よく医療が提供されるよう、地域実情をふまえて対応していくことを狙いとした地域医療構想が推進されている。そのような背景の中で、加賀市においても病床機能の分化や連携が進められており、緩やかに望ましい方向に進んでいると考えられる。

今後、加賀市の地域医療の充実のためには、更に下記の項目について具体的に取り組むことを期待する。なお、自らが望む人生の最終段階における医療ケアについて考え話し合い共有する取組「人生会議(ACP)」などについても、普及啓発だけでなく具体的に組み込んでいくことを望む。

## (1) 加賀市医療センターについて

加賀市医療センター改革プランの進捗状況は現時点では良好であると思われる。救急搬送応需率・病床の稼働率も高く、加賀市医療提供体制基本構想に基づき病院を統合したことは適正であったと考えられる。

今後も学べる病院として若い世代の医師がキャリアアップできる環境づくりを進め、医師招へいに努め診療体制の充実を図られたい。

また、継続して実施している患者満足度調査について、調査結果を病院運営の指標のひとつとして医療提供体制の充実に努めてほしい。

## (2) 加賀看護学校について

看護学校が実習施設に隣接しないのは、医療センターの教える側、学生双方にとって好ましくない状態にある。実習機関と隣接していない状況が続けば、学生数の減少を招き、加賀市内に就職する看護師が少なくなり、看護師の確保ができなくなる状況も考えられる。加賀市医療提供体制推進委員会の看護師養成部会からの報告により、10年を目途とされている移転計画を早めることを検討されたい。

また、加賀看護学校卒業生は、できるだけ加賀市内で就職をしてもらえるよう、その対策を講じていただきたい。

## (3) 山中温泉ぬくもり診療所について

山中温泉ぬくもり診療所については、山中温泉医療センター閉院による激変緩和策としての役割は果たしたものと考えられるが、地域の医師の高齢化、山中温泉ぬくもり診療所の外来患者の実績数の現状や市の医療提供体制を考慮すると継続していくことが望ましい。しかし、診療所の存続には赤字決算も続いており、診療規模の縮小など運営の健全化を検討すべきである。

また、当該診療所の病床については、山中温泉医療センター閉院後、約4年経過した現時点において、病床を稼働せずとも、市内の入院医療体制はほぼ確保されてきた状況がある。そのようなことから、市内の病床数の推移を勘案しながら、病床の廃止も検討していく必要があると考えられる。